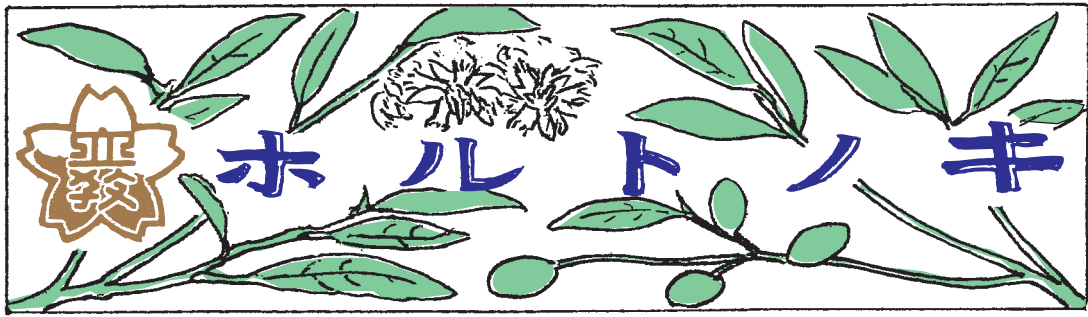




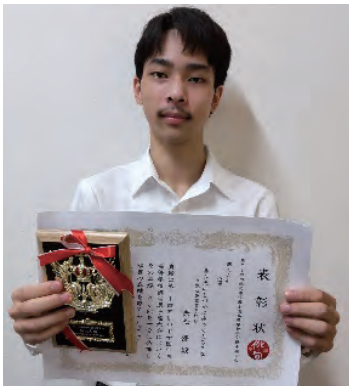
中央区明石町 立教学院発祥の地 記念碑

高校文芸部 夏の活躍

◆第二回 センバツ！全国高校生即吟俳句選手権 第六位 辻村幸多（一年）

◆第二十四回 俳句甲子園 全国大会（審査結果オンライン）21.8.22：愛媛県松山市）三チーム出場
A―蛸原悠喜、坂田治哉、丹羽隆樹、野口大
清、藤井万里（三年）
B―赤松優、岡部優司、辻村幸多、三宅爽太、望月陸玖（一年）
C―佐々木秀悟、杉浦拓
集（二年）、小野内勇
太、菊地雄大、菅原一祥
（三年）
入選 A―丹羽隆樹、
B―赤松優
優秀賞（神野紗希選）
B―三宅爽太―蟬は雪を
見たくて殻に目をのこす

昨年に引き続き、俳句甲子園全国大会予選は投句審査によって行われました。我々文芸部は、三チームが挑戦し、何と三チームとも全国大会出場という驚きの結果を残しました。全国大会は、コロナの猛威がおさまらなかつたため、全国出場校三十二チームからさらに投句審査により上位四チームが選出され、その上位四チームのみが松山市においてディベートで競うという形式になり



句を始めるハードルが下がってくると嬉しい。ぜひ、暇なときにでも俳句を作ってもらって、文芸部に入ってもらいたい。

東京オリンピック高校生ボランティア（テニス）を体験して

まずは、私がこのオリンピックという国際的な大会にボランティアとして参加し、貴重な体験を得られたことを関わった全ての人に感謝したい。

俳句を作るときというのは、公園等の自然の中で作るのが普通だと思われがちだが、実際は違う。確かにそうすることもあるし、それが理想なのだが、俳句に必要な季語とフレーズは生活しているすぐそばにあるのだ。また、コロナ禍による外出制限もあり、家の中で俳句を作ることが非常に多かった。家の中でも俳句は作れる。これで俳句を触ったことがない人の、俳句を始めるハードル

が下がってくると嬉しい。ぜひ、暇なときにでも俳句を作ってもらって、文芸部に入ってもらいたい。



最後に謝辞を。句の指導をしてくださった先輩やOB、コーチ、厳しい環境の中で部活の時間を作ってくれた顧問、そして、共に句を作ってくれたチームメイトの皆、本当にありがとうございます。（高一 赤松 優）

また、今年の立教池袋文芸部が俳句甲子園に残した成績を書く。今年は、全国大会三チーム出場と、優秀賞一人、入選二人という成績で終わっている。来年は一チームしか出せないさうだが、全国優勝が最優秀賞を取ってほしい。

芸部は、今年で五年連続八回目の俳句甲子園全国大会出場を果たしている。それにも関わらず、部員が一向に増えない。新入部員数は、去年が一人、今年はない。文芸部も少子高齢化の時代なのか。理由は実に明白で、「俳句をやる」と言われても心がときめく人がいないのである。当たり前である。なにもおかしいことはない。小学校を出たばかりの新入生が俳句をやりたいと思うのは珍しいことなのだ。そんな人は私の知る限り三人しかいない。とにかく新入部員は欲しいので、来年のクラブ紹介をする人にはぜひとも頑張ってもらいたい。君に文芸部の未来がかかっている。さて、今年の立教池袋文芸部が俳句甲子園に残した成績を書く。今年は、全国大会三チーム出場と、優秀賞一人、入選二人という成績で終わっている。来年は一チームしか出せないさうだが、全国優勝が最優秀賞を取ってほしい。



次に、会場内の独特な雰囲気や伝えたい。厳重な警備のチェックを通して中に入ると、そこは日本ではないかのようにも感じられた。すぐそばに選手やコーチが歩いていたり、コートを見れば選手たちが練習をしているという環境は非日常そのものであった。

大会に貢献できたという実感は私に取って誇らしいものであると同時に、一つの楽しみでもあった。また、規則では選手と話すことは禁止されていたが、時折一言二言選手と会話する時間もあつた。この時体感したのは英語力がこれからどれだけ大切になっていくかということであつた。選手はヨーロッパや南米など世界各地から来ていたが、すべての選手がコミュニケーションを英語で行っていたからである。プロの選手の試合を連日、最も近い場所で見ることがこれから先できるだろうか。部活動を通してテニスをやってきた身として



て、これに勝る素晴らしい経験はないだろう。東京オリンピック、私はここで得られた感動や、かけがえない経験を忘れずに将来に活かしていきたい。高三（庭球部）松岡英生





とても感謝している。この経験と感動がいつか役に立つ日がくればいいと思っている。

高三(庭球部) 山下大輝

数理研究部 ワールド・ロボット・サミット参加

ワールド・ロボット・サミット(以下W・R・S)とは、経済産業省が主催の社会問題解決ロボティクスコンテストであり、学生のみならず「村田製作所」のような大企業も応募している国際コンテストである。この中にジュニア部門(U-十八)があり、数理研究部チームも採択されて参加することになった。チームはヒューマノイドロボットであるPepperを用いたSDGsの課題解決である。シンガポールや日本にあるインターナショナルスクールの高校生との合同チームとなり、言語や時差をこえ

て課題解決をお互いに議論して、自分たちのテーマを決めた。Pepperが、人とのソーシャルディスタンスを計測し、その人のマスクの有無を判定し、対応するということを考え、プログラミングを行い、どうさせることにした。

それぞれのチーム事情、メンバーの都合をSNSで調整し、七月初旬から準備を重ねて取り組んだ。共通言語は英語であり、SNSでのチャットも英語、音声の会話も英語、プログラミング・審査会、審査員との対話と英語漬けの大会だった。参加した中学2年生の感想を以下に紹介する。

でしか話すことができないため、相談などをする時は少し難しかったです。大会の期間では、チームのみんなといっしょにロボットのプログラムを組み、共にさまざまな問題を乗り越えていきました。プログラムの発表では問題が起きたりしましたが、無事終わることができました。この大会への出場を通して私は初対面の人と親しみながら一つの目標に向かって努力することの楽しさを知りました。いつかまたこのようなグループワークに参加してみたいです。

数理研究部はロボット国際大会に参加できる機会を得た。Pepperを使って課題を解決するアイデアを競う大会だ。僕たちはシンガポールの学校、日本の学校とチームを組み、日本のなった。リアルタイムで行われる英語でのやりとり。頭の中で考える暇は無く、

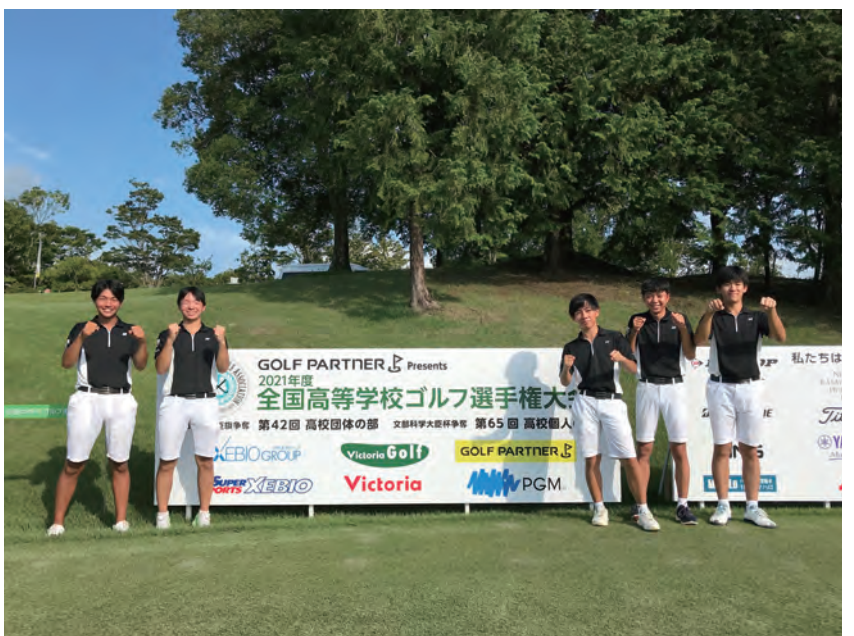
中高ゴルフ部 全国大会出場

二〇二一年度全国中学校・高等学校ゴルフ選手権大会は八月二三日(二八日)栃木県で開催された。高校会場はサンヒルズカントリークラブ、中学会場はピーターダイルゴルフクラブ。本校ゴルフ部は四つのカテゴリーの内、高校の団体と個人、中学個人の三カテゴリーで出場。一三年間続いていた中学団体戦は残念ながら出場を逃したが、強豪校の多い高校団体戦で五年振りの出場を果たした意義は大きい。単に一人だけ上手い選手がいても出場できない団体戦には、クラブ活動としての面白さがある。次年度は全てのカテゴリーでの出場を目指して頑張りたい。

以下は出場選手の感想です。

(顧問 増田 毅)

○高校団体
今回私は、全国大会の団体戦に出場した。中学生以来約三年ぶりの全国の舞台だった。私は、この大会を



た。後輩たちにはまた来年全国大会の舞台に戻ってきてもらい一つでも上の順位を目指してほしいです。

(高三 昌山大輝)

○高校団体
高校団体戦で全国大会に出られたことを誇りに思っています。しかし、その一方で様々な悔しい体験もありました。満足する部分もありますが、伸ばしたい所、調子の悪い日にリカバーできなかったことを今となって後悔しています。二日目の前半まで良い流れで来ていたのにも関わらず、最後の最後でスコアをたたいてしまったのは自分の体力の無さと集中力の欠如を実感しました。それでも先輩二人、後輩二人と一緒に戦えたことはとても楽しく、充

○高校団体・個人
高校では五年ぶりの全国大会出場となり久しぶりの団体戦の出場は緊張もありましたが、普段味わえない楽しさを味わうこともできました。自分自身調子が悪く思った結果が出なかったのですが、チーム五人で出場できたことは今後につながる良い経験となりました。



○高校団体
私が全国大会で感じたことは、それぞれの地方の予選を勝ち抜いて全国まで来た高校が集まっているので非常にレベルが高いなと感じました。自分より上手な人ばかりで自分自身のゴルフをレベルアップさせなければ全国では戦えないなと改めて感じました。私は一年生なのであと二回チャンスがあります。悔しさを晴らすためにもまた来年全国の舞台に戻って来られるように練習を重ねたいと思います。また、先輩たちと一



実した時間を過ごすことができたと思います。何より、このようなコロナ禍で今大会を開催してくださった方々に感謝しています。来年は今年の悔しさと経験をバネに二日間アンダーで回ろうと思います。
(高二 阿出川宗哉)

○中学個人
初めての予選から三試合戦えて非常に楽しかったです！
(高一 榎本聖大)

○高校団体
私は都大会、関東大会ではメンバーには選ばれていませんでしたが、五年ぶりに先輩方や同級生のおかげで全国大会に出場する事ができ、補欠として参加させて頂きました。全国大会はこれまでとは比べられない程上手い選手が多く沢山の刺激を受けました。自分は初日、二日目共に補欠としてサポート出来ることを全てやっと思ったと思っていますが、やはり全国大会という舞台で戦いたいという気持ちや出られなかった悔しさは残りました。それでもこの二日間はとても有意義で、自分のゴルフ人生において大きな経験になりました。この大舞台に連れてきてくださった先輩方や同級生には感謝しかありません。そしてコロナ禍の中間催してくださったゴルフ場や主催者の方にも感謝の気持ちでいっぱいです。また来年戻って来て勝てるよう頑張りたいと思います。
(高一 諏訪貴皇)

立教水泳部 仲間と過ごした三年間

二〇二一年夏。私の水泳人生に終止符が打たれた。ここからは、私が水泳人生最後の三年間を過ごした立教池袋水泳部について紹介していきたい。
もともと私はクラブチームで練習をやっていた。この学校で入学したのも、学校見学で見た五〇メートルプールに心を奪われたからである。四月になってまもなく水泳部に入った私を部員たちは明るく声をかけて

きしてくれた。私の中にあった少しばかりの不安はここから大きな期待へと変わっていった。
学年の垣根を越えた仲の良さは、この水泳部ならではのものとと言えるだろう。その背景に練習の圧倒的なキツさがあると私は考える。走っても疲れる五〇〇mもの距離を、水泳部は毎日泳ぐ。みんなでキツイ練習を乗り越えることで、水泳部の団結力は深まっていったのだと思う。
立教池袋水泳部には初心者から全国大会に出るようなトップクラスの選手まで、様々なレベルの人が集まる。そのためレベル別にクラスが大きく三つ存在する。

Fクラスは初心者を中心としたクラス。次にG2、3クラス、最も実力の高いG1クラスとなる。細かくクラス分けがされていることで、水泳部ではどの選手も自分のレベルに合った練習をすることが出来る。また下のクラスは上のクラスから泳ぎを学び、上のクラスは下のクラスから刺激を受ける。水泳部ではこのように、相互に良い影響を与え合っているように感じる。

ちなみに最近から、G1クラスの練習メニューはプロのコーチが作ってくださっている。「スピード系」「有酸素系」「スピード持久力系」を組み合わせた効果的な練習をすることができ、一流選手たちから教わることもできる。五〇メートルプールに羽根つきのスタート台、それにプロの方々が協力してくださる充実した環境は、本校水泳部の一番の魅力と言える。私も引退前の二か月という短い間であったが、コーチのメニューをこなしながら一流選手たちの泳ぎを見たりアドバイスをもらったりすることで、技術面や体力面で大きく成長することができた。

しかし振り返ってみると、水泳部で過ごした三年間は決して平たんなものではなかった。新型コロナウイルスが蔓延してから一時期は泳ぐことができず、度重なる大会の中止によって多くの部員が目標を見失っていた。高校三年生である私たちは、引退までどのようにしてモチベーションを保てばいいのか真剣に話し合った。意見は何度もぶつかり合い、全員での引退が危ぶまれることもあった。それでもこうして、最後にみんなで引退することができて本当に良かった。三年間のほとんどをコロナと共にした部活動であったが、最後まであきらめずにやり通した経験は今後の人生で糧になると確信している。



本校の水泳部にはコーチや顧問、マネージャーを含めた多くのスタッフと仲間たちがいる。私は高校三年間をこのような恵まれた環境で泳ぐことができて、非常に幸せだと感じた。
(高三 キヤブテン 山岸 洋太)



中学バスケットボール部
東京都中学校バスケットボール選手権大会ベスト16
豊島区大会を優勝し、六月二七日から行われた選手権大会に出場しました。一回戦は自分たちのバスケットでリズムに乗り、快勝。二回戦は一九〇cmの大型選手を擁するチームに粘り強く戦い、逆転勝利。三回戦で強豪・日本学園に敗れましたが、最後まで諦めず、関東大会出場校に堂々と戦い抜きました。コロナ禍における活動は非常に難しいところもありましたが、周りの方々の支えもあり、ベスト16まで勝ち上がる事ができました。
応援ありがとうございました。
(顧問 市橋祐介)

中高鉄道研究部 全国高等学校鉄道模型コンテストでベストクリエイティブ賞とベストムービー賞受賞

八月二十日から二日間かけて行われた鉄道模型コンテスト全国大会。今年は「ほのかに賑わう高原の駅」をテーマに、面白山高原駅をモデルとして作品を制作しました。面白山高原駅は山形県にある仙山線の駅で、秋には紅葉が美しく色づく観光地として知られています。二年前は琴電琴平駅、去年は城崎温泉駅と建物が多く建つ観光地を制作してきた私たちに、自然をテーマに製作するのは新しい挑戦であり、約三か月間の試行錯誤を重ねて模型班の十二名で完成させました。

今年の作品では川や紅葉といった自然と、神社や橋といった人工物が調和して見えるように製作することを心掛けました。鉄橋は厚紙を使用し設計から塗装まで全て自分たちで行い、塗装の際はさびた鉄のように見えるよう塗ることにこだわりました。橋の下を流れる川は大きい石を置くことによって上流や中流であることを表現し、作品のメインとなる紅葉は赤色、橙色、黄色の三色を使用することによって色づいた葉が鮮やかに見えるよう工夫しました。そして線路を湾曲させることによって遠くから見たときに動きがあるように見え、近くで見るとトンネルを抜け、橋を渡る鉄道が見える人のほうに来るかのように見えるように製作しました。



るよう工夫しました。そして線路を湾曲させることによって遠くから見たときに動きがあるように見え、近くで見るとトンネルを抜け、橋を渡る鉄道が見える人のほうに来るかのように見えるように製作しました。

の宇田川、中二の石塚の四名が鉄道研究部を代表してプレゼンテーションを行いました。コンテストの前日には四人で連絡を取り合い、コンテストの直前まで話し合っていたと言っていました。緊張しながらも無

事に発表を終えられて安心しました。今年にはベストクリエイティブ賞とベストムービー賞の二つを受賞しました。去年の作品が優秀賞だったため悔しい結果だと感じたところもありますが短い期間であったことやテーマを大きく変えて挑戦したことに後悔はありません。来年以降も新しいことに挑戦し続け、今年の結果を超えていってみたいと思います。

(高二 中野遥葵)

新型コロナウイルスの影響が、学校生活のあらゆる場面に及んでいます。残念ながら、延期や中止になってしまった行事や試合、規模を縮小せざるを得なかった活動も少なくありません。そのような中、感染対策を講じ、場合によってはオンラインに切り替えたり、工夫をしつつ日々出来る限りの力を注いでいます。今回の号も、大部分、顧問等の先生を通し、生徒諸君からメール添付などの手段で寄稿いただきました。例年とは異なる状況下で励む活動の一端をご覧ください。(編集子)

＋ 今月の聖句

Let us not become weary in doing good, for at the proper time we will reap a harvest if we do not give up.

Galatians 6:9

AS I sometimes remind students in our urban setting, most of us have never lived any kind of daily agricultural lifestyle. The rural rhythms are so different. Also, it has been two years since we have gone to spring camp, or experienced travel to rural areas, so even this short window in time has been shut. It is hard, then, to imagine the feeling of expectation when planting seeds in the spring. At that time, a farmer just needs to have faith that, after all the hard work of watering and weeding through the summer, the harvest will come in the fall. Expectations are the same when witnessing the birth of new livestock, tending them and watching them grow until they are ready to give milk, wool, or meat. But that is what a faithful lifestyle is all about, too. We plant seeds now. Seeds of good habits, seeds of disciplining ourselves to study hard or make efforts in our club activities, seeds of investing time and effort into making good relations with students, staff and teachers. We tend those seeds, watering them during the summer and watching them grow, and praying that at the proper time, we will have a life that abounds with praise to our God and Father. In the Psalms, we can find these encouraging words:

Those who sow with tears will reap with songs of joy.
Those who go out weeping, carrying seed to sow,
will return with songs of joy, carrying sheaves with them. 126:5-6

This is a beautiful reminder that all of our sorrows and heartbreak will one day be completely changed. In this world, we will all experience some difficult experiences, but, through God, we know that all is temporary. This is because we have that promise that comes from being in relationship with God. Sometimes these promises are unseen, or even unfelt, but like the tiny seeds or newly born livestock they will become more real than our expectations can imagine.

-Chaplain Mark Stahl